



First Friends Hospital Set

子どもたちが病院や診療所での受診を練習できるごっこ遊びです。気持ちを理解し表現する力、体やケアに関する言葉、共感する力、出来事を順序立てる力を支えます。

内容

救急車、医師、看護師、患者2人、クリニックの家具

対象市場

家庭・教育の両方

■ セットの内容



First Friends Ambulance

24 × 19 × 18 cm



医師



看護師



患者2人とクリニックの家具

■ 子どもが学ぶこと



感情リテラシー

けがをすること、怖がること、安心させてもらうこと。病院ごっこは、誰かに手当てをしてもらうときのさまざまな気持ちを、子どもたちが遊びの中で体験できる活動です。



言葉

お医者さん、看護師さん、包帯、治った、やさしく、「どこが痛いの?」。体とケアの言葉です。



社会的な関わりを伴う遊び

助ける人と助けられる人。役を引き受け、交代し、反対側の気持ちを知ります。



世界を知る

病院や診療所では何をするのか、なぜそうするのか。あらかじめ知っておくことで、実際に受診するときの怖さがやわらぎます。



順序立て

転ぶ、呼ぶ、救急車、病院、ベッド、治る、帰る。順序立った受診はお話であり、安心にもなります。



手先の器用さ

患者を救急車に座らせ、フィギュアをベッドに寝かせ、医師を机に座らせます。

■ ひとつのセットで5年間遊べる

1〜2歳

救急車を押し、フィギュアを出し入れし、サイレンの音を出す

2〜3歳

医師と看護師の名前を言い、患者をベッドに寝かせ、「治った」と言う

3〜4歳

仲間とお医者さんごっこをし、どこが痛いか尋ね、手当てをする

4〜5歳

友だちと病院ごっこをし、受診の流れを最初から最後まで順番に演じ、助ける人と助けられる人の両方の気持ちについて話す

■ はじめの日に試す



救急車に乗って

12〜30か月・患者が後ろに乗り、ドアが閉まり、サイレンを鳴らして病院へ向かいます。



どこが痛いの?

2〜4歳・体の部位を表す言葉を使います。



こわくないよ

3〜5歳・患者が怖がっています。看護師は何と言う? どうすれば安心できる?

■ テーマ

私たちを助けてくれる人

医療

わたしの体

気持ち

安全に過ごす

病院とお医者さん

お世話をしよう

